

大学・学問・読書・図書館

— 学生諸君へのメッセージ —

図書館長

石川 義之

(人間科学部人間社会学科教授)



大学は「学問」の場

大学は、楽しいことがいろいろあるところですが、その基本的使命は「学問」をやる場という点にあります。

学問とは、一口で言えば、体系化された知識であります。この学問は何から生まれ、何を生み出すか。

中国の蜀の偉大な政治家、諸葛孔明は「学問は静から生まれ、才能は学問から生まれる」と言っています。

学問の基盤は「静」＝読書と思索

「静」とは読書とそれに基づく思索ということです。読書とそれに基づく思索はあらゆる学問の共通の基盤であり、国文学にしても心理学にしても児童学にしてもその他あらゆる学問は、基本的に、この静＝読書とそれに基づく思索から生まれます。

「読書」と「思索」は、①「知」を豊にし、②「情操」を育み、③堅固な「意志」を育てます。本学の建学の精神である「知情意兼ね備えた」女性は、その意味で、静＝読書とそれに基づく思索から生まれるといって過言ではありません。そして、この静＝読書とそれに基づく思索こそが、あらゆる学問を身に付ける上で普遍的な基盤となるのです。

才能は学問から生まれる

「読書」と「思索」に基づく学問から才能は生まれます。才能とは決して持って生まれた人間の個性ではありません。初めから才能のある人とない人とが分かれていますではありません。まさに才能は学問によって形成されるのです。その意味で、若いみなさんは全て才能豊かな人格(＝「知情意兼ね備えた」女性)に育つ可能性を持っていると言えます。

「読書」と「思索」に基づき学問を営み、その学問を通して才能豊かな人格(＝「知情意兼ね備えた」女性)に育つ場、それこそが大学なのです。

大学図書館は「静」の場

大学において、「読書」と「思索」に基づき学問を営み、その学問を通して才能豊かな人格を育てる最も中核的な機関、それが大学図書館です。

幸い、大阪樟蔭女子大学には、90年になんなんとする伝統と平行に、書籍35万冊、雑誌3千900種に及ぶ蔵書を誇る、全国でも高ランクに位置する素晴らしい図書館があります。その他、視聴覚資料なども豊富

に備わっています。

この豊かな図書館を宝の持ち腐れにしないで、大いに活用して欲しい。図書館は、「読書」と「思索」に基づき学問を営む場として、大学の中核的施設です。

授業の課題を解くだけでなく、自分で主体的に図書館を利用し、多くの本を読み、読書を通して大いに自己(才能＝知・情・意)を磨いて欲しい。

今や映像文化の時代で、若者の読書離れの深刻な時代ですが、やはり学問の中心は依然として読書し、ものを考えることであり、これを抜きにした学問はありません。

図書館は、まさに諸葛孔明の言う「静」の場であります。多くの偉大な先人たちは、大学とくに図書館で読書し思索し学問をし、そのことによって才能を育てた人たちです。

男女共同参画社会にむけて

男女共同参画社会に向かう動向のなか、原則的に、これからの女性は家庭に閉じこもって、家事と育児だけに専念することは許されません。社会の中に役割を持って参画する自立した人間たることを今や女性たちは求められています。

女子教育の伝統を誇る本学に入学したみなさんは、積極的に学問し、自己＝才能を磨き自立した女性として社会に進んで参画していくことを期待されています。図書館に並べられた多くの蔵書は、並べられているだけでは何の意味もなく、みなさんが利用してくれることを待っています。

大学の中核的施設である図書館で、静かに読書し思索し学問し(＝静)、そのことを通して知情意兼ね備えた豊かな才能を育て、男女共同参画社会を支える主体的で自立した女性として社会に巣立っていくことを、祈り、また図書館としてもそのことをサポートしていきたいと思っています。

みなさんのご健闘をお祈りいたします。



リラクスペースのイメージ
金田百恵卒業論文(2006年度)より